


インターネットによる社会変化と 保健医療福祉 —ヘルスコミュニケーションと情報の信頼性—

中山和弘(聖路加看護大学)

「ナースに役立つ種類のサイトとは？」

(http://www.geocities.jp/kazu_hiro/)

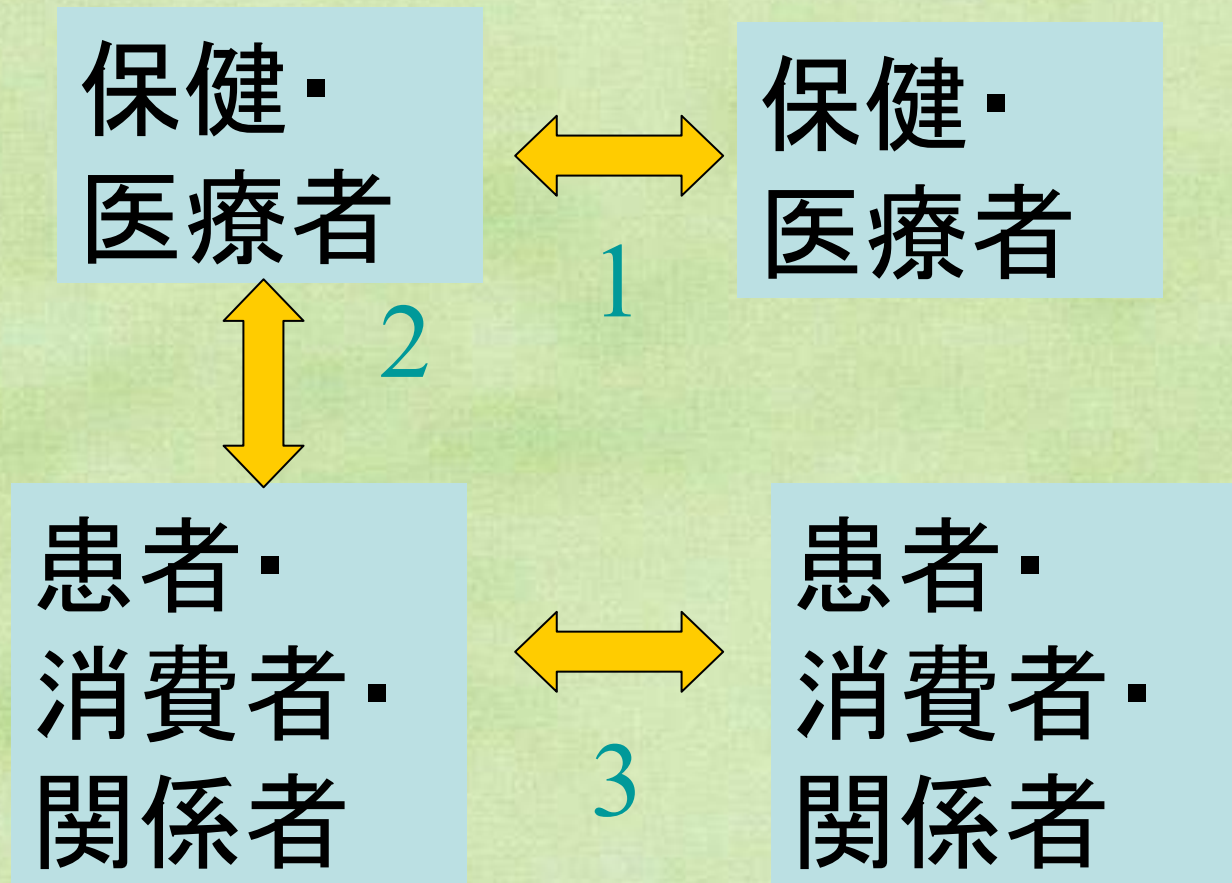
2007.3.14 宮崎県総合保健センター
宮崎県健康づくり協会研修会



今日の話

- ☞ 保健医療における3つのコミュニケーション
- ☞ インターネットによる社会変化
- ☞ インターネットにおける課題と問題点
- ☞ ヘルスコミュニケーションとヘルスリテラシー
- ☞ Webの情報の信頼性
- ☞ 住民向け情報提供の方法と支援

保健医療における 3つのコミュニケーション



1.保健・医療者間 データに基づく意思決定不足

❧ 厚生省の保健医療情報システム検討会中間報告(1994)

「わが国の保健医療情報システムの目的は、主として保健医療サービスを提供する上での効率性の向上に向けられており、保健医療関係者などの意思決定者がデータに基づいて客観的意思決定を行う際の情報支援に用いられることは比較的少ない」


2.保健・医療者－患者・消費者間 健康情報提供不足

☞厚生省の保健医療福祉サービスの情報化に関する懇談会(1995)

「地域の身近な保健所、市町村保健センター、医療機関等で病気の予防や健康増進、高度な診断治療等の健康情報が手軽に利用できる総合的ネットワークの整備が必要である」

3.患者・消費者間も含めた 1,2,3のコミュニティへ

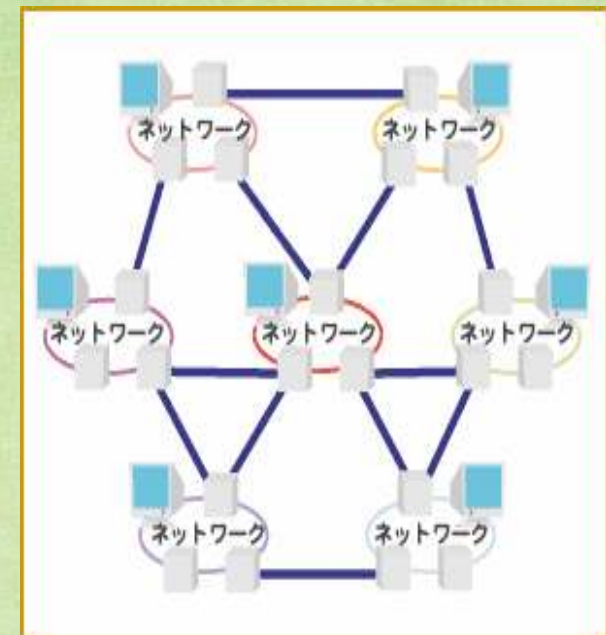
☞「インターネットは、知的な井戸端会議の要素をもった、立派なコミュニティです。そのベースにあるのは、自己表現欲と知識収集欲とボランティア精神。人に教えたい、知らせてあげたい、見てもらいたい、そういう気持ちが生界中にあふれている。このような感情は、病気を治してあげたい、困った人を助けてあげたい、喜んでもらいたい、何かしてあげたい、といった医療に携わる人たちの基本でもあります」大江(1995、一部略)

The background is a light green color with a subtle floral pattern. In the top-left and bottom-right corners, there are stylized green flowers with multiple petals. In the center, there are several concentric, semi-transparent white circles that create a ripple effect.

インターネットによる社会変化

自律分散ネットワーク (自律性)

- ❧ インターネットとは「ネットワークのネットワーク」
- ❧ 利用者の統一管理・登録の仕組みはなく、各ネットワークが自律的に管理運営し結びついていけばよい
- ❧ 利用の仕方は、ネットワークの管理主体の自由と責任(内外での情報のやりとりの確保に対して責任)

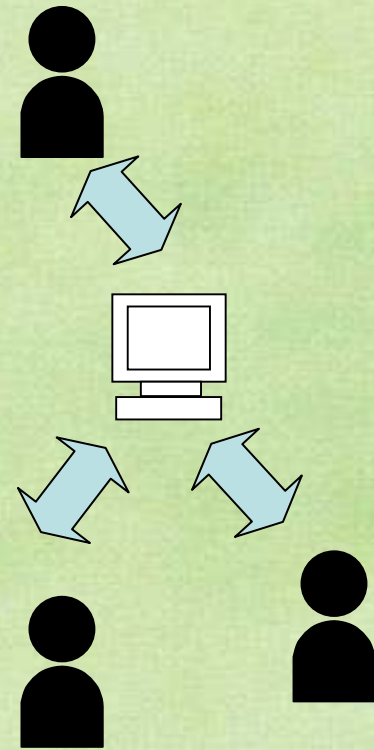


違いを越えて結びつけられる

- ☞ 網の目 (Web) のようにつくり、どこかのルートで障害が生じてもそれ以外の部分でネットワークが維持できるように分散化
- ☞ ネットワーク個々の違いを越えて、どこでも誰とでも情報の交換、共有が可能
- ☞ ネットワーク構造自体が新しい社会のありかたの1つのモデル (VS. 硬直した階層的な管理社会)
- ☞ 共通の関心や目標さえあればどこでも結びついていける可能性を提供

高速でボランタリーな情報交換 (双方向性)

- ❧ 自分が必要な情報に関する世界中のサイトに簡単に高速でアクセス
- ❧ 掲示板、メール、ブログなどで質問や意見を掲載し、すぐに意見をもらうことができる(双方向の情報交換)
- ❧ 意思決定の速度をより早くかつ的確にすることが可能
- ❧ 専門家と非専門家の知識量差縮小
- ❧ 知識や情報を提供する人々「情報ボランティア」(阪神・淡路大震災以来)



情報コミュニティと地域の親和性

- ❧ 新たな助け合いのコミュニティ＝情報コミュニティ、バーチャル・コミュニティ、電子コミュニティ
- ❧ ローカルに行動するうえでも即座に行動に移せるので効果的な利用が可能
- ❧ 大分県のネットワークCOARAでは県内の個人・グループ、研究ネットワークにくわえて他府県や世界からの参加。異なるものどうしのコミュニケーションによって地域を活性化



ネットの情報交換で生活支援

- 保健医療福祉のような活動とその支援のための地域内ネットワークでは、地域性のある情報をデータベースとして保存、更新し、必要なときにいつでも見られるようにしていくことが望まれる
- ネット上が情報交換や相互理解の場になると同時に、実際の生活援助につながる活動へ
- 地域住民の生きがいや生活の質を高めるなど参加型の生活支援ネットワーク、協働



社会はタテ型からヨコ型へ (対等性)

- ☞ インターネットはグレート・イコライザー(Great Equalizer)=強力な平等化装置
- ☞ すべての利用者に発信者としての能力を等しく提供できる可能性(対等性)
- ☞ 他方では、人々を情報という商品の消費者としてきわめて受け身的な立場にする可能性もありはするものの、消費のみならず情報の生産者になることが可能

情報は「民主主義の通貨」

- ❧ 個人でもグループでも小さな存在が大きな存在と対等に話ができる
- ❧ 民主的な対話を促進できる現代におけるもっとも重要な技術利用例→民主主義の実験
- ❧ こうして市民の参加と決定権を増大させ、社会の仕組みを伝統的で権威的なタテ型から誰もが参加できるオープンなヨコ型へ変えていく可能性
- ❧ 情報は「民主主義の通貨」




新しいチャレンジをすぐに

- ❧ 既存のシステムにないが、今後必要になる新しいチャレンジについて情報発信がすぐに
- ❧ 現在の状況に疑問を感じたり、問題や困難を抱えている人たちは、すぐにその情報を得て行動に移せる(NPO)
- ❧ そのような目的を持ったコミュニティが、従来の政府、自治体、企業とともに解決を図る
- ❧ 住民が産業や政府、行政を動かす
例:ヘルスプロモーション

インフォームド・アクションの保障

- ❧ 患者あるいは消費者が情報を得る権利
- ❧ 情報公開の要求など、住民にとって必ずしもすべてを他人任せにできないという動き
- ❧ インフォームド・アクション(情報を得た行動)の保障(インフォームド・コンセントもその一部)
- ❧ 政府・行政の情報は税金でつくられた資産
- ❧ 草の根の人々が情報を持てば政府や行政をより責任を持ったものにできるという見方
- ❧ アメリカの市民運動ではメーリングリストで実現



インターネットにおける
課題と問題点

ユニバーサルアクセスと デジタルデバイド

- ❧ インターネットへだれもがアクセスできるようになること＝ユニバーサル・アクセス、ユニバーサル・サービス
- ❧ アクセシビリティに格差があれば、情報貧者あるいは情報弱者が生まれ出され格差は拡大
- ❧ Great EqualizerどころかGreat Divider
- ❧ アメリカではユニバーサル・アクセスはすでに市民運動のキーワード

情報発信権と情報アクセス権 アクセシビリティ

✧ 郵政省の電気通信審議会(1995)

✧ 情報面での格差が、社会・経済面での格差に直結。全ての人々に対して、非差別的に、かつ、適切な価格でネットワークを利用して情報を発信し、また、情報にアクセスすることが保障されなければならない。『情報発信権』と『情報アクセス権』は基本的人権

✧ 国連(1993)「障害者の機会均等化に関する基準規則」

✧ 診断・権利・利用できるサービスと計画に関する十分な情報を入手できるべきである。このような情報は障害を持つ人が利用できる形態で提示されるべきである →アクセシビリティ

自治体サイトの構築と評価

- ❧ 公共分野におけるアクセシビリティの確保に関する研究会（総務省） e-Japan II 重点施策
 - ❧ みんなの公共サイト運用モデル: 誰でも使える地方公共団体ホームページの実現に向けて
 - ❧ 電子政府・電子自治体推進プログラム
- ❧ 山田肇 編『市民にやさしい自治体ウェブサイト構築から運用まで』NTT出版,2005.
- ❧ アスコエ 自治体WEBサイト評価
- ❧ 電子政府・電子自治体情報チャンネル(日立)
- ❧ 早稲田大学電子政府・自治体研究所

チャレンジド支援



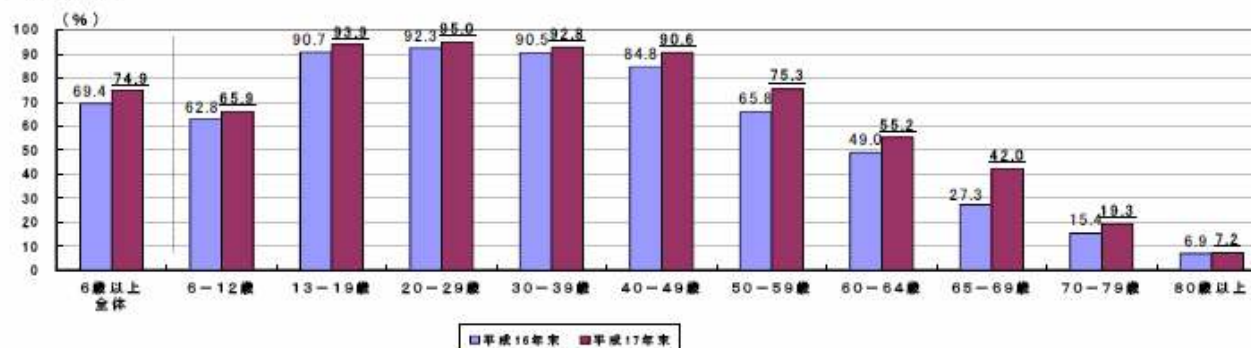
- ❧ 障害者や高齢者の在宅勤務の可能性
- ❧ 課題はコストや技術、雇用者の対応能力であって、障害の程度ではない
- ❧ 障害にあわせた能力開発や就労のサポートをする支援組織が必要
- ❧ それらの活動で障害者たちは新しい呼称であるチャレンジド（Challenged、神から挑戦すべきことを与えられた人々）

インターネット普及状況

- 総務省「平成17年通信利用動向調査」
- 利用者8,529万人(PC6,601万人)、普及率66.8%に
- 利用率は40歳代まで90%以上、50歳代75%、60～64歳55%、65-69歳42%と差あるが、全年代で利用増加、町村部で7割近い世帯利用→デバイド縮小傾向

属性別のインターネット利用率（世帯構成員）

① 世代別



データベース化と情報公開の促進

- ❧ インフォームド・アクションの保障のためには、情報公開
- ❧ 情報公開以前に、日本においては、欧米と比較してデータベース化が進められていない
- ❧ 情報そのものが日々最新情報に更新され、いつでもすぐに検索できるようなかたちになっていないことが問題
- ❧ データベースソフトの普及、教育を

情報における自由と責任

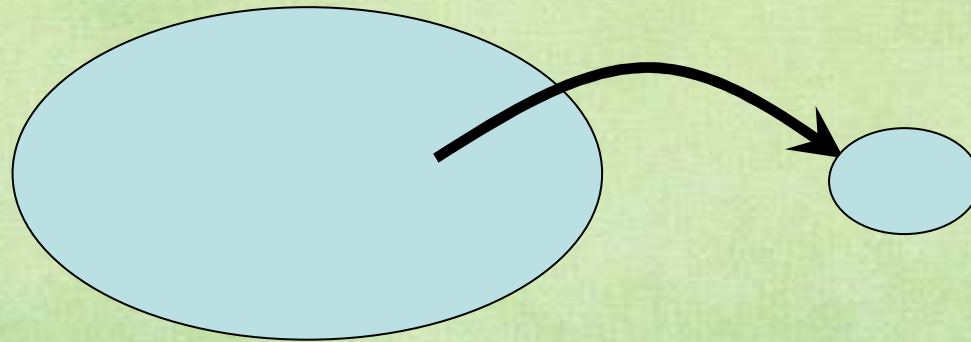
- ❧ インターネットはもともと利用者相互の信頼関係の上に成り立っていたオープンさがその大きな長所であり、その目的
- ❧ 技術的な面で個人が傷つけられないように努力するのはもちろんであるが、利用する側で自分を守る努力もまた必要である
- ❧ 情報における自由と責任の自覚が必要
- ❧ アメリカ発ということもあって発想が個人主義的で、It's up to you.

情報の利用者の責任

- ❧ 流通する情報量が増加した場合、そこから情報を探すための負担も同様に増加
- ❧ インターネットにおいては個々の情報を信用するか否かについては、受け手が責任を負う
- ❧ しかしすべての利用者がその前提の上で利用しているとは限らない(ワラにも・・・)

情報選択基準と信頼性

- ❧ 莫大な情報の蓄積のなかから一部を選択しているものは、その方針の信頼性の問題
- ❧ 行政や教育研究機関などのサイトにおいてリンクが行われていた場合、その機関はそのリンク先の情報を信頼しているのだという印象を受ける
- ❧ 他のサイトへのリンクの選択基準の有無や内容の提示



免責事項と情報リテラシー支援

- ❧ 情報提供側は、責任範囲の宣言も必要
「本サイトで提供される全ての情報に対して、それらの情報を利用することから生じる損害に対する一切の責任を負いません」
- ❧ 情報選択の能力を支援することも重要
- ❧ 情報を批判的かつ客観的に分析、評価できる能力と情報発信する能力をあわせた、情報を総合的に活用する能力である「情報リテラシー」

インターネットへの過度の依存

- ❧ 医療機関のみならず、インターネットの活用がかえって患者、障害者、高齢者などとの直接のふれあいを妨げないようにする必要
- ❧ それは、人々のふれあいの代替手段ではなく、人々のふれあいや助け合い、協力の可能性を広げる手段
- ❧ 情報化がすすめば人と人の接触が増加するというのが情報化の本来の目的

傷つけられやすさ(vulnerability)

- ❧ 情報発信をするということは同時に傷つけられやすさ(vulnerability)を受け入れること
- ❧ 自分で乗用車のハンドルを握る自由により、事故に対しても自分で責任を負うのと同じ
- ❧ 反論や誹謗中傷を受ける可能性もあるし、不正確なあるいは嘘の情報提供を受けることも
- ❧ 必ずしも平和や愛や相互理解などといった理想的な方向だけでなく、ジェラシーや憎しみをも

インターネットは危ない？

- ❧ 人権・著作権・プライバシー侵害、名誉毀損
- ❧ ネット中毒、ケータイ中毒、ドライアイ、テクノストレス、電磁環境破壊、電磁波、廃棄パソコン
- ❧ 架空請求、不正コピー、ネット詐欺、ネット賭博、サイバーねずみ講、オークション被害
- ❧ 掲示板荒らし、HP改ざん・乗っ取り、迷惑メール、コンピュータウイルス、ハッキング、サイバーテロ
- ❧ 出会い系サイト、児童ポルノ、自殺支援サイト
- ❧ 個人情報流出、メールの盗聴

みんなで作る信頼関係

- ❧ 必要なものは個人を守るセキュリティ技術の進歩と1人ひとりの人を傷つけないという意識
- ❧ そういう意識を持っている人だという信頼を裏切らないように振る舞うこと
- ❧ 村井(1998)
インターネットでは少数の権威ある人間や国家権力ではなく「みんな」が力を合わせた安心と保障のメカニズムを形成してきているからそこに危機感や疑いはない



相互援助のシステム

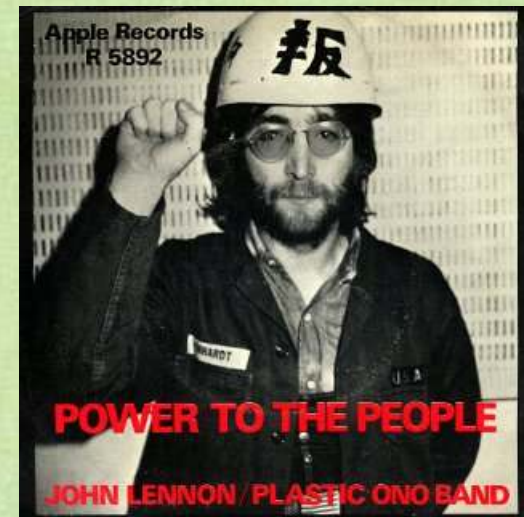
- ❧ もし助けを必要とする人がいれば助けてあげる、という相互援助のしくみをつくること
- ❧ 助ける人もまた助けられる
- ❧ 援助する側の人でも自分の生き方について考えさせられるところがあり、自己のアイデンティティを確認
- ❧ 情報を発信するには、全体として自分と社会のかかわりかたについて考える必要がある。


日本人は情報発信能力低い？

- ❧ かならず誰か目上など上の人がいてその人のために漠然といいことをしようとするくせ、世間並み
- ❧ 村井(1995)
インターネットの持つ意味はアメリカと違っていて、強い権威と管理主義の歴史を持つヨーロッパやアジア(とくに日本)では、個人の責任を考えるきっかけ
- ❧ 山上(1998)「現在の日本社会がその政治的、経済的、そして学問的にある種の閉塞感と国際的孤立感を感じさせるのは、職能団体の閉鎖性、議論をよしとしない権威主義、そして、専門家意識ではないのであろうか」

Power to the People

- ❧ 開発は軍事目的というきっかけ
- ❧ 反戦や反体制の技術者たちが育て上げた「Power to the People」の目的
- ❧ エンパワーメントに最適なツール
いつでも、どこでも、だれでも！
- ❧ エビデンスを住民のエンパワーメントのためにわかりやすい情報にして提供、普及



The background is a light green color with a subtle floral pattern. In the top-left and bottom-right corners, there are stylized green flowers with multiple petals. In the center, there are several concentric, semi-transparent white circles that create a ripple effect.

ヘルスコミュニケーションと ヘルスリテラシー

ヘルスコミュニケーション

- ❧ 「健康増進のために個人やコミュニティに対して情報提供や影響を与えるコミュニケーション戦略の応用や研究」(Healthy People 2010)
- ❧ 有用な健康情報を人々に伝え広めるために、マスメディアや マルチメディアを利用し、また他の革新的な技術を利用して、個人的・集団的な健康の独自の視点や、健康発展の重要性をさらに気付かせることができる

ヘルスコミュニケーションの方向

- ❧ 多くの現代的文化は、健康に対して良くも悪くも強い影響を与えているマスメディアやマルチメディアによって伝播されている
- ❧ 研究によれば、理論を駆使して行われたヘルスプロモーション事業によって、健康の話題が人々の議論にのぼり、健康のメッセージが強化され、人々がさらに情報を求めることを促し、ある条件下では、健康的なライフスタイルをもたらすという

ヘルスコミュニケーションの領域 (Healthy People 2010)

- ❧ 保健医療関係者と患者の関係
- ❧ 個人の健康情報との接触、検索、利用
- ❧ 個人のアドヒアランス
- ❧ 公衆衛生のメッセージやキャンペーン
- ❧ 個人と集団への健康リスク情報の普及
＝リスク・コミュニケーション
- ❧ マスメディアや文化における健康のイメージ
- ❧ 公衆衛生やヘルスケアへのアクセスに関する消費者教育
- ❧ テレヘルス(遠隔医療など)応用の発展

ヘルスリテラシー

- ❧ リテラシー＝もともとは読み書き能力
- ❧ 健康に関する適切な意思決定を行うのに必要な健康情報やサービスを手に入れて、整理して、理解する能力の程度（アメリカ Healthy People 2010, 2001）
- ❧ 生活習慣と生活状況の改善を通じて、個人やコミュニティの健康改善ができるよう、主体的に行動するための知識・生活上の技術、技能・自信の成熟度（WHO）

ヘルスリテラシーの分類 (Nutbeam,2001)

✧ 機能的ヘルスリテラシー

- ✧ 事実に基づいた健康情報を獲得
- ✧ 専門家から対象への一方向的な健康教育による

✧ 相互作用的ヘルスリテラシー

- ✧ グループやコミュニティのなかで個人が自主的に適切な情報や行動を獲得
- ✧ グループやコミュニティへの参加による

✧ 批判的ヘルスリテラシー

- ✧ 健康の社会経済的な要因について情報交換、政策や組織の変革に参加
- ✧ コミュニティ活動、リーダーや政治家との交渉、コミュニティづくりの方法の技術的なアドバイスによる

The background is a light green color with a subtle floral pattern. In the top-left and bottom-right corners, there are stylized green flowers with multiple petals. In the center, there are several concentric white circles of varying thicknesses, creating a circular frame effect.

Webの情報の信頼性

信頼性とガイドライン

❧ 消費者向け健康情報の質と信頼性

http://www.geocities.jp/kazu_hiro/nurse/webcredibility.htm

❧ 情報提供者側ルール

❧ 利用者ガイドライン

❧ メディカル・ネチケット

❧ 認証機構

❧ 情報利用支援者、支援システム

情報提供者と利用者のガイドライン

- ❧ 日本インターネット医療協議会
提供者側向けの「[eヘルス倫理コード](#)」
- ❧ [医療健康情報認証機構](#) (JACHI)
- ❧ [HONcode](#) (The Health on the Net Foundation Code of Conduct)
- ❧ DISCERN イギリスの消費者健康情報の質基準
- ❧ QUICK 子供向け
- ❧ [CASP](#) 情報を見極める、批判的吟味

患者・家族のインターネット情報の 信頼性調査

- ❧「患者・家族におけるインターネット上の医療(健康)情報の利用状況と意識に関する調査」
- ❧平成13年度厚生科学研究費補助金(医療技術評価総合研究事業) 主任研究者 辰巳治之
- ❧対象: 高血圧、糖尿病、喘息、アトピー性皮膚炎、胃がん・乳がん・大腸がんの患者及びその家族 2000人
- ❧利用情報の信頼性
 - ❧「かなり信頼できる」9.5%、「まあまあ信頼できる」83.0%、「あまり信頼できない」7.1%、「ほとんど信頼できない」0.4%

(続き)信頼できるウェブサイト

- ❧ 「大学病院、国立病院」45.2%
- ❧ 「公的な研究機関」42.4%
- ❧ 「患者(個人または団体)」36.6 %
- ❧ 「民間の医療情報提供会社」35.7%
- ❧ 「診療所・クリニック」35.2%
- ❧ 「厚生省などの国の機関」31.8%
- ❧ 「製薬メーカー」30.2%
- ❧ 「地域の中核病院」24.0%
- ❧ 「医師会」23.8%
- ❧ 「保健所」18.4%

(続き) 情報内容の信頼性の基準

- ❧ 「実在する医療機関が提供する情報である」
55.0%
- ❧ 「公的な機関が提供する情報である」48.1%
- ❧ 「医師または医師団体が提供する情報である」
47.5%
- ❧ 「患者(団体)が提供する情報である」44.7%
- ❧ 「薬をつくっている製薬メーカー自身が提供する
情報である」28.5%
- ❧ 「薬剤師が提供する情報である」18.3%

(続き)情報の信頼性を 損ねる要因

- ❧ 「誰が情報提供者かよくわからない」67.3%
- ❧ 「情報が一方的で偏っている」60.5 %
- ❧ 「情報提供に営利的な要素がからんでいる」58.6%
- ❧ 「情報の作成日が古い」44.3%
- ❧ 「裏付けとなる文献・資料など、情報の出所が不明である」43.8%
- ❧ 「営利企業が提供している」42.3%
- ❧ 「情報に科学性、客観性がない」37.2%
- ❧ 「専門家の監修を経ていない」26.3%
- ❧ 「情報の作成日が不明である」26.2%

インターネット上の医療情報の利用手 引き(JIMA)

③どんな情報を利用するか一質の高い情報
を利用する

1. 情報提供の主体が明確なサイトの情報を利用する
2. 営利性のない情報を利用する
3. 客観的な裏付けがある科学的な情報を利用する
4. 公共の医療機関、公的研究機関により提供される医療情報を主に利用する
5. 常に新しい情報を利用する
6. 複数の情報源を比較検討する

(続き) インターネット上の医療情報の利用 手引き (JIMA)

- ☞ どう利用するかー情報利用は自己責任で
 - 7. 情報の利用は自己責任が原則
 - 8. 疑問があれば、専門家のアドバイスを求める

- ☞ 情報利用の結果はー自ら検証する気持ち
でよりよい情報共有を
 - 9. 情報利用の結果を冷静に評価する
 - 10. トラブルに遭った時は、専門家に相談する。

The background is a light green color with a subtle floral pattern. In the top-left and bottom-right corners, there are stylized green flowers with multiple petals. In the center, there are several concentric white circles of varying thicknesses, creating a circular frame effect.

住民向け健康情報提供の方法と支援

住民向けコンテンツの種類

☞eラーニング

マルチメディア教材、クイズ、テキスト/資料

☞健康情報/健康資源

リンク集、用語集、ニュース、研究紹介

☞意思決定支援

Web版、Face to Face

☞健康/リスクチェック

☞健康教育プログラムの紹介

患者/健康教室、ミニ医学校

マルチメディアのオープンデータベース による健康学習素材

☞ 最近話題のオープンデータベース

☞ [YouTube](#)、[Ameba](#)、[「ワッチミー！TV」フジテレビ](#)

☞ [Mixi](#)、blog Web2.0の世界→参加＝みな情報提供者

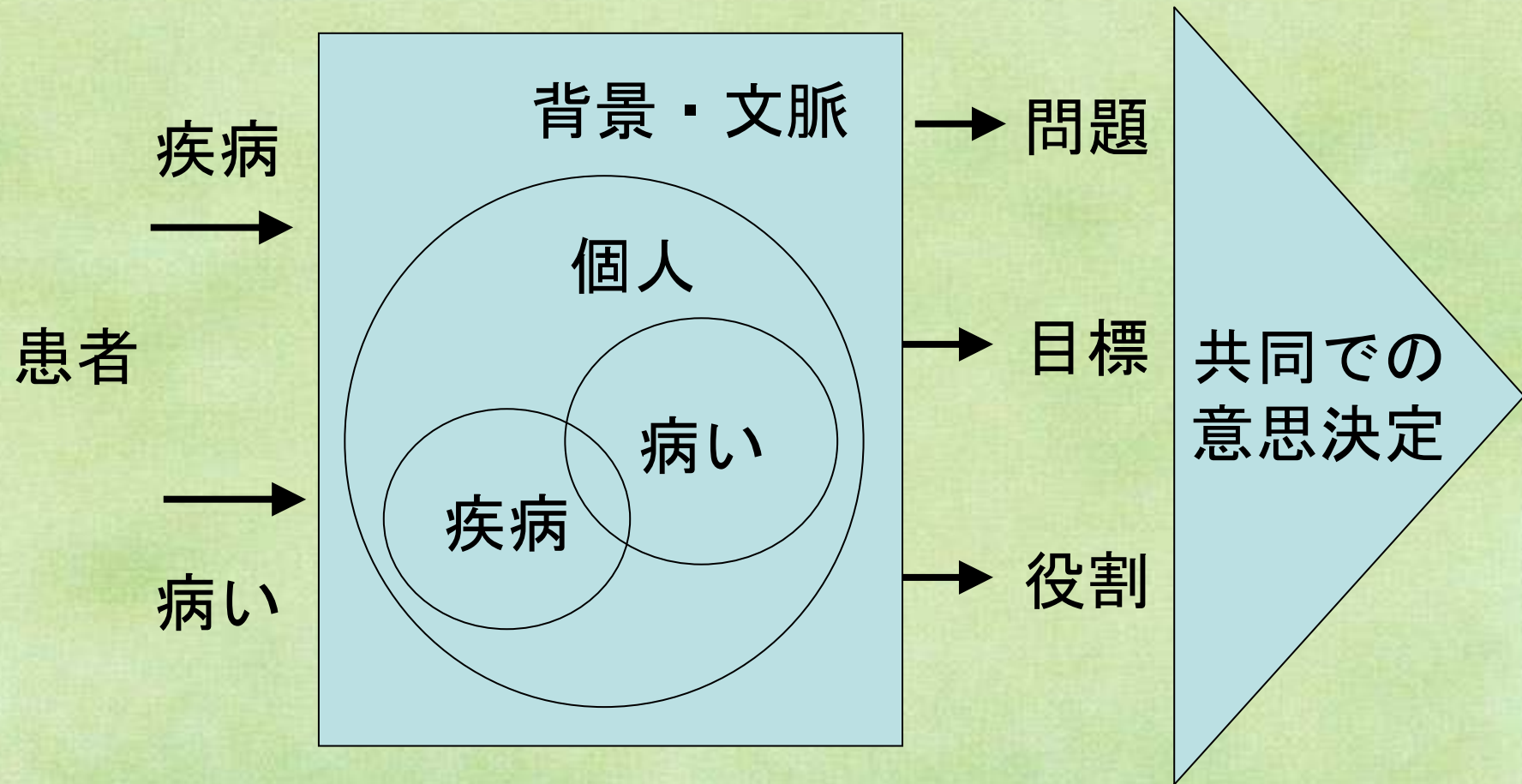
☞ 患者の語りデータベース

☞ CHESS (The Comprehensive Health Enhancement Support System)

☞ 乳がんなど疾患別の健康問題に直面した人にインターネットによるインタラクティブなヘルスコミュニケーションを提供するシステム

☞ 24時間、役に立つ情報、体験談などで患者をサポートしエンパワーします。さまざまな病院などで導入

患者中心の臨床技法 (Stewart, et al, 1995)

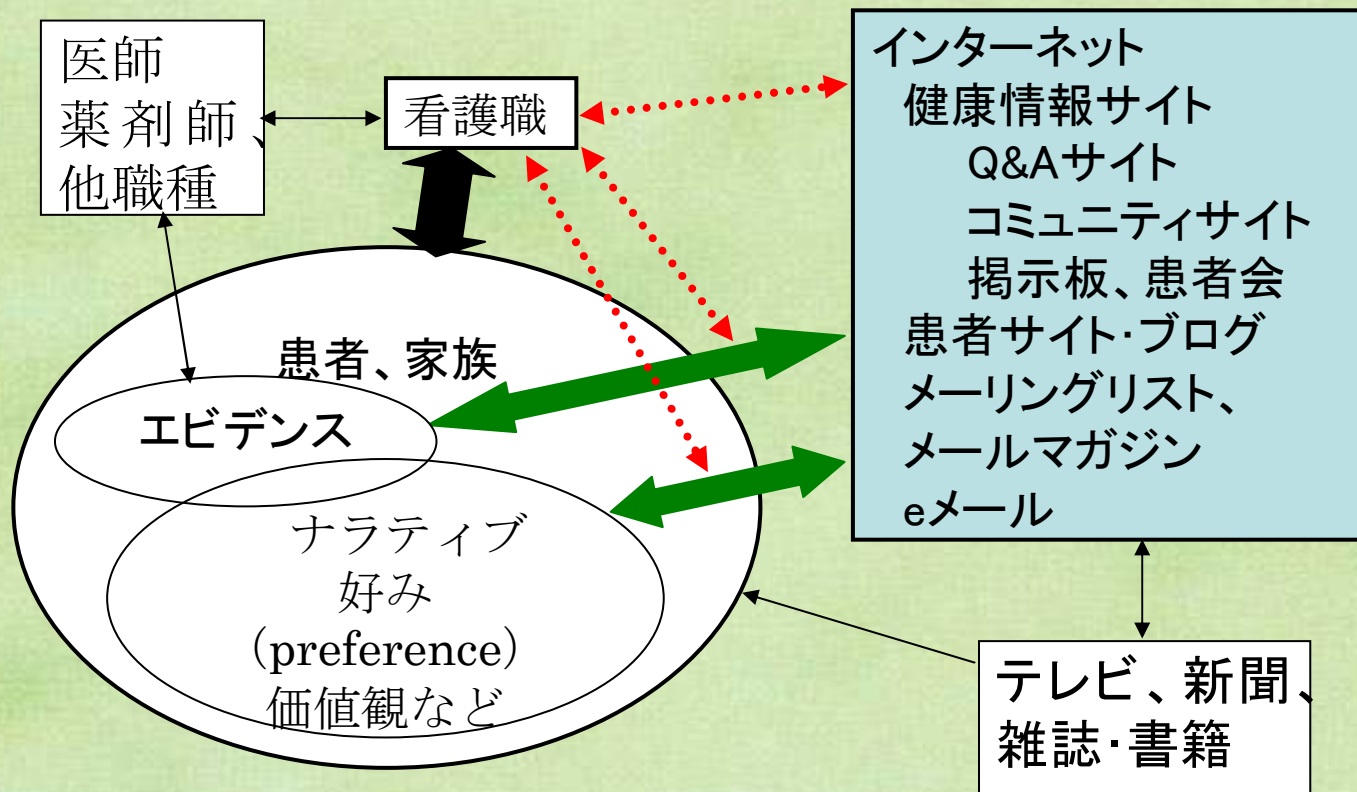


エビデンスとナラティブ(好み)の両方を1, 2, 3のコミュニティで

- ❧ エビデンスを理解できるようにわかりやすく提供
- ❧ エビデンスは確率情報であることが多い
- ❧ 確率をどう受け止めるかはリスク認知の問題で、さまざまな要因で変化
- ❧ 情報を受け止める側におけるナラティブ(語り、物語)や意向、好みに寄り添う必要
- ❧ どのように受け取られたかフィードバックしてもらい、またナラティブを作り直す
- ❧ 1, 2, 3のコミュニティで2つの統合を

看護職の新たな役割

消費者健康情報学



点線部の能力(ヘルスリテラシー)を高め患者中心(エビデンスとナラティブ両面)でトータルに支援(太矢印)